

# 2018（平成30）年度 福岡県立大学社会福祉学会 第10回大会

## 大会開催のご案内

### 大会テーマ

「福祉と教育から日本社会を考える  
～共生と連帯を求めて～」

### 開催のご挨拶

本学会は、今回で第10回を迎えることになりました。本学会は、元本学学長であった保田井進先生の遺志を引き継ぐべく、2008年3月、当時社会福祉学科長でありました鬼崎信好教授の呼びかけにより発足したものです。もう11年目を迎えることとなります。現在会長をさせて頂いている私も、今年度で停年を迎えることとなります。「日暮れて道遠し」というのが実感です。今回の学会では、理事会や社会福祉コースの教員の皆様のご配慮で、私の退職記念ということで基調講演をさせて頂くことになりました。

私のライフワークは石井十次研究ですが、これを長年支えてくれたのは石井十次記念友愛社の理事長児嶋草次郎先生です。今回、私のために応援に駆けつけてくれることになりました。施設で育った青年2名（現在大学4年）とともにです。

ところで、現在、児童福祉の分野は大きな変革期にあり、施設から里親へという方向性を明確にした「新しい社会的養育ビジョン」が発表され、関係者に波紋を投げかけています。この作成者の一人が福岡市こども総合相談センター、えがお館の所長藤林武史先生です。グローバル基準を意識した児童改革の先頭に立っておられる先生とあってよいでしょう。児童相談所改革はGHQ統治下でのキャロル活動報告書に遡ります。しかし、GHQの支配下から脱した日本は官僚主義的な再編を行い、子育ては親の責任、親が子育てに失敗した場合には、施設保護を最後の拠り所とする、という考え方が支配的であり、児童相

談所は、そのための措置機関にされてしまいました。社会的な協働の子育て、そのために児童相談所を措置機関ではなく専門的なソーシャルワーク機関へと発展させなければならない、というキャロルの改革構想は、今現在も課題であり続けているといえるでしょう。

新自由主義の台頭、格差の拡大こそ、現在の児童虐待問題等の深刻化の背景であるはずです。我々は新自由主義的政策、監視と短期的な介入の強化の方向に対し、有効な代替案を見出さなければならないと思います。市場的自由主義の破壊的影響力への抵抗軸となる社会的正義の構想を多様な社会階層の連帯によって形成しようというのがカール・ポランニーの主張でした。また、新自由主義的な政策に対抗しようというのが、ヨーロッパ諸国の伝統であり、イギリスで注目されているソーシャル・ペタゴジーの考え方です。それは、福祉と教育を一体的に考えるものであり、治療的な短期プログラムよりは、長期的に継続する関係性を重視しています。

児嶋先生は、石井十次の精神を継承するものであり、地域の歴史と文化および長期的な関係性を重視し、福祉と教育を一体のものとして実践してこられました。それに対し、藤林先生はキャロル報告書の精神の継承者であると思われ、グローバルな基準を意識した児童福祉改革に意欲的です。グローバル基準の改革への志向と地域の歴史と文化に根付く福祉と教育実践への志向は如何に折り合うのでしょうか。共生と連帯を求めて、改めて福祉と教育から日本社会のあり方を考え合っていけるなら幸いです。

2018年12月吉日  
福岡県立大学社会福祉学会 会長 細井 勇

# 福岡県立大学社会福祉学会 第10回大会 開催要項

## I. 大会内容について

1. 大会テーマ : 「福祉と教育から日本社会を考える ～共生と連帯を求めて～」
2. 日 時 : 2019年3月2日(土) 13:00～18:00 (12:30 受付開始)
3. 会 場 : 福岡県立大学 講堂  
(田川市伊田 4395 TEL: 0947-42-2118)
4. プログラム
  - 13:00～14:00 基調講演(リカレントセミナー)  
「日本のミュラー・石井十次、ドイツの児童福祉、そして筑豊で出会った人々」  
講師: 細井 勇  
(本学会会長、福岡県立大学人間社会学部 教授)
  - 14:10～15:00 特別講演1(リカレントセミナー)  
「国連ガイドラインを意識した日本の児童福祉改革の展望ー児童ソーシャルワークと社会的養護の関係を中心にー(仮題)」  
講師: 藤林 武史 氏  
(福岡市こども総合相談センター 所長、  
精神科医師)
  - 15:00～15:50 特別講演2(リカレントセミナー)  
「地域の歴史と文化に根づく福祉と教育の実践ー石井記念友愛社のあゆみからー」  
講師: 児嶋 草次郎 氏  
(社会福祉法人石井記念友愛社 理事長)
  - 16:05～17:00 鼎談  
パネリスト: 児嶋 草次郎 氏  
藤林 武史 氏  
細井 勇
  - 17:15～18:00 総会
  - 18:30～20:30 懇親会 会場: 稚加栄  
(田川市番田町 6-23 TEL: 0947-42-1245)

## Ⅱ. 基調講演について

### ◆ 講師 ◆

## 細井 勇

(本学会会長、福岡県立大学人間社会学部 教授)



### ◆ プロフィール ◆

#### 略歴

- 1953年 北海道生まれ
- 1981年 同志社大学大学院文学研究科修士課程修了
- 2007年 関西学院大学大学院社会学研究科博士課程修了、博士(社会福祉学)
- 現在 福岡県立大学人間社会学部教授  
日本キリスト教社会福祉学会理事  
日本ソーシャルペタゴジー学会理事

#### 主な業績

- 書評：犬養光博著『「筑豊」に出会い、イエスと出会う』(いのちのことば社、2018年10月)『キリスト教社会福祉学研究』51、2019年発行予定
- 「社会的子育てを考えるーソーシャル・ペタゴジーとドイツの児童福祉の紹介を通じてー」『季刊児童養護』49-1号、2018年
- 『福祉にとっての歴史 歴史にとっての福祉 ー人物で見る福祉の思想ー』ミネルヴァ書房、2017年(共編著)
- 「国際的観点から見たドイツにおける家族政策と要保護児童対策」『社会保障研究』2-2.3、2017年
- 「ドイツの児童福祉と日本の児童福祉ードイツ児童・青少年援助法と児童福祉施設ー」『福岡県立大学人間社会学部紀要』25-1、2016年
- 「ソーシャル・ペタゴジーと児童養護施設ー福祉レジームの観点からの国際比較研究」『福岡県立大学人間社会学部紀要』24-2、2016年
- 「岡山孤児院 12 則と里親委託」『社会的養護とファミリーホーム』6号、2015年
- 『石井十次と岡山孤児院ー近代日本と慈善事業ー』ミネルヴァ書房、2009年

現在、科研費研究(B)「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究ー日本、韓国、イギリス、ドイツを中心にー」(平成30年度~32年度)代表

## ◆ テーマ及び概要 ◆

テーマ：「日本のミュラー・石井十次、ドイツの児童福祉、そして筑豊で出会った人々」

私は、福岡県立大学の前身である福岡県社会保育短期大学着任から 33 年となり、停年退職となります。私の最終講義を福岡県立大学社会福祉学会第 10 回という記念すべき大会の基調講演という形でさせて頂けるとするのは身に余る光栄です。私としては皆様にお礼と感謝を述べる義務があると思っていますので、そうした義務を果たす機会とさせて頂くことにしました。

私の最終講義は以下の 3 つを大きな項目とさせて頂くことにしました。

第 1 は、日本のミュラーとしての石井十次です。ジョージ・ミュラーは国際的に知られた国際的な宣教者です。1836 年ブリストル孤児院を創設し、1875 年に 65 歳にして国際的宣教活動に乗り出し、1886 年末に来日し、各地で講演しました。「信仰の生涯」というタイトルです。ミュラーは祈りとその結果、つまり祈りの力について日記に書くことを勧めました。石井はミュラーの「信仰の生涯」を読み、1887 年岡山孤児院を創設し、日記を生涯にわたって書き続けました。

ところで、創立期の岡山孤児院事業を財政的に支えたのはアメリカン・ボードという国際的伝道団体でした。石井はいちはやく「日本のミュラー」としてアメリカに紹介されていきました。その後の石井の事業は慈善事業に留まるものではなく、むしろ地域開発的、社会開発的な事業でした。今日のソーシャルワークに求められる在り方に通じるものがあると思います。

第 2 は、ドイツの児童福祉です。東西ドイツ統一直後、子どもの権利条約採択直後の 1990 年、児童・青少年援助法が成立しています。ドイツの制度構造から日本の児童福祉、社会福祉制度が持つ構造的課題が見えてくると考えています。日本の児童福祉法で、主語は都道府県であり、児童相談所長であり、市町村です。主体が人間になっていないのです。社会が主体になっていないのです。ドイツの法律では児童・青少年と親が常に主語になっています。

第 3 は、筑豊で出会った人々です。ナザレのイエスとその伝道がユダヤ王国の中心エルサレムではなく、辺境としてのガリラヤであったことに注目する必要があります。変革の思想は辺境から生まれます。

近代化とは石炭産業を通じた重化学工業化です。日本の産業の発展が福祉国家を可能にしました。日本の産業化は筑豊の石炭産業に依存しました。しかし炭鉱夫は社会的に冷遇されました。それは何故なのか。日本社会の闇と光は筑豊から見えてくると考えます。「復権の塔」で知られる服部団次郎や福吉伝道所で 30 年間活動された犬養光博の思想と実践の一端を示したいと思います。社会変革の思想とは、己の人間性や世界観が崩されていく歩みであることを。

### Ⅲ. 特別講演 1 について

#### ◆ 講師 ◆

藤 林 武 史 氏

(福岡市こども総合相談センター所長、  
精神科医師)



#### ◆ テーマ ◆

「国連ガイドラインを意識した日本の児童福祉改革の展望ー児童ソーシャルワークと社会的養護の関係を中心にー (仮題)」

#### ◆ プロフィール ◆

##### 学歴・職歴

- 昭和 59 年 九州大学医学部卒業後、2 年間の研修を経て、
- 昭和 61 年 国立肥前療養所 (現、肥前精神医療センター)
- 平成元年 佐賀医科大学精神科 (現、佐賀大学)
- 平成 4 年 佐賀県精神保健福祉センター
- 平成 15 年 4 月 福岡市こども総合相談センター所長に就任、現在に至る

##### その他役職名

- 日本子ども虐待防止学会理事
- 日本トラウマティックストレス学会理事

##### 著書

- ・地域保健におけるひきこもりへの対応ガイドライン (共著,じほう,2004)
- ・大災害と子どものストレス (共著、誠信書房,2011)
- ・国連子どもの代替養育に関するガイドライン (共著,福村出版,2011)
- ・子ども虐待への新たなケア (共著,学研, 2013)
- ・児童相談所改革と協働の道のり (編著、明石書店, 2017)

#### IV. 特別講演2について

##### ◆ 講師 ◆

児嶋 草次郎 氏

(社会福祉法人石井記念友愛社 理事長)



##### ◆ テーマ ◆

「地域の歴史と文化に根づく福祉と教育の実践—石井記念友愛社のあゆみから—」

##### ◆ 体験談 ◆

西山 彰彦 さん (九州保健福祉大学社会福祉学部 4年)

小松 愛沙美 さん (九州保健福祉大学社会福祉学部 4年)

##### ◆ プロフィール ◆

石井十次の曾孫にあたり、平成3年から、社会福祉法人石井記念友愛社の理事長を務めている。現在も十次の思想・哲学を受け継ぎ、保育園10ヶ園、児童養護施設3ヶ園等を経営する一方で、老人デイサービス施設と保育園、小規模児童養護施設を併設した複合施設を作るなど、年齢や障害の有無を超えた大家族的共生社会の実現をめざし、日本の福祉の開拓者たらんと活動している。

毎月、石井記念友愛社の機関誌として「友愛通信」を執筆、ホームページで読むことが出来る。地域の歴史と文化に根づく福祉と教育実践に取り組んできた経緯から「新しい社会的養育ビジョン」には危機感を持っている。以下を参照。

- ・「分岐点に立つ」『ゆうあい通信』320号(2018年11月)
- ・「日本型システムを」『ゆうあい通信』319号(2018年10月)
- ・「子供の未来を作る」『ゆうあい通信』318号(2018年9月)
- ・「16年親子関係修復プロジェクト」『ゆうあい通信』313号(2018年4月)
- ・「ビジョンとミッション」『ゆうあい通信』311号(2018年2月)
- ・「『新しい社会的養育ビジョン』を憂う」『ゆうあい通信』306号(2017年9月)

## V. 鼎談について

### ◆ パネリスト ◆

児嶋 草次郎 氏  
藤林 武史 氏  
細井 勇

## VI. 学会参加費及び懇親会参加費

	会 員	非会員	大学院生	学 生
学会参加費	1000 円	1500 円	1000 円	500 円
懇親会費	4000 円		2000 円	

## VII. 参加申し込み方法

基調講演及びシンポジウムにご参加の方は、別紙 1 の「参加申込書」に必要事項を記入の上、~~2月22日(金)まで~~に、FAX または E-mail にてお申し込みください。  
⇒参加申込み締切を3月1日(金)まで延長いたします。

FAX 番号：0947-42-1491（社会福祉学科直通）

E-mail：k-hata@fukuoka-pu.ac.jp（社会福祉学科 畑）

◆ ご質問等ございましたら、下記連絡先までお問い合わせください。

福岡県立大学社会福祉学会第 10 回大会 事務局

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科

福岡県田川市伊田 4395 番地

TEL：0947-42-2118（代表） FAX：0947-42-1491

事務局長 河野 高志 kohno@fukuoka-pu.ac.jp

事務局 畑 香理 k-hata@fukuoka-pu.ac.jp

鬼塚 香 onitsuka@fukuoka-pu.ac.jp

(別紙1)

# FAX : 0947-42-1491

福岡県立大学社会福祉学科行

福岡県立大学リカレントセミナー及び社会福祉学会第10回大会

## 参加申込書

名前 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

所属 \_\_\_\_\_

卒業年度 (福岡県立大学卒業生の方のみ) : \_\_\_\_\_

TEL: \_\_\_\_\_

E-mail: \_\_\_\_\_

※ ご提供いただきました「個人情報」につきましては、本学会以外の目的では使用いたしません。

①基調講演 (参加費無料)

《 参加する      ・      参加しない      》

②特別講演 1 (参加費無料)

《 参加する      ・      参加しない      》

③特別講演 2 (参加費無料)

《 参加する      ・      参加しない      》

④鼎談 (参加費が必要です : 学会員 1000 円、非学会員 1500 円、  
大学院生 1000 円、学部生 500 円)

《 参加する      ・      参加しない      》

④懇親会 (参加費 4000 円、大学院生・学部生の方は 2000 円)

《 参加する      ・      参加しない      》

⑤その他、学会へのご要望等がございましたらお書き下さい。

**3月1日(金)締切**